

Oil Market Review 23第38号

2024年（令和六年）

1月12日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カトキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

12/21～12/27のNYMEX・WTI先物市場は73.56～75.57ドルの範囲で推移した。

12月28日は、主要海運会社の紅海向け航行再開など、イエメン過激派フーシ派による船舶攻撃に対する懸念は和らぎ、続落した。2月物終値は前日比2.34ドル安の71.77ドル。

週末29日は、軟調な米国経済指標・ドル高に伴う割高感からわずかに続落した。ただ、3連休を前に、様子見ムードも強かった。2月物終値は同0.12ドル安の71.65ドル。

連休明け1月2日は、紅海での緊張の高まりで値上がりで始まったが、世界経済の後退懸念・米株式の軟調で4営業日続落した。2月物終値は前日比1.27ドル安の70.38ドル。

3日は、レバノンでイスラエルによると見られるドローン攻撃、イランで革命防衛隊スレイマニ司令官追悼式典中に爆発、リビア・シャララ油田で住民抗議による出荷停止があり、緊張の高まりで4営業日ぶりに大きく反発した。2月物終値は前日比2.32ドル高の72.70ドル。

4日は、緊張が続く中、米国石油在庫の大きな積み増しで、米国需要の緩和感が拡大し、反落した。2月物終値は前日比0.51ドル安の72.19ドル。

週末5日は、米国の12月雇用統計が市場予想を上回り、米国景気の底堅さが好感され、反発した。2月物終値は前日比1.62ドル高の73.81ドル。

週明け8日は、依然、パレスチナをめぐる緊張が続く中、この日、サウジ原油の極東向け販売価格の調整金が2ドル引き下げられ、12月のOPEC生産量は前月比微増、アンゴラ・アルジェリア・イラク等の増産がサウジの自主減産分を相殺したとの報道と相まって、需給緩和感から大幅に反落した。2月物終値は前日比3.04ドル安の70.77ドル。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	12/31 ~ 1/6	2,948	▼ -24	▼ -
	トップ稼働率 (%)	"	82.0	▼ -0.7	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	1/6	10,349	▼ -962	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/9	75.09	▼ -1.75	▲ 0.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	1/8	70.77	▲ 0.39	▼ -3.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月上旬	92.11	▼ -1.39	▼ -3.01
①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	86,385	▼ -2,334	▲ 3,834	
②ドル換算レート (¥/\$)	"	149.11	▲ 1.75	▼ -11.13	
外国為替TTSレート (¥/\$)	1/9	144.98	▼ -0.54	▼ -12.13	

9日は、パレスチナ紛争は、紅海で船舶攻撃を行いうイエンのフーシ派に加え、レバノンの過激派ヒズボラに飛び火するなど、拡大の様相を見せていることから、反発した。安値拾いの買いも多かった模様。2月物終値は前日比1.47ドル高の72.24ドル。

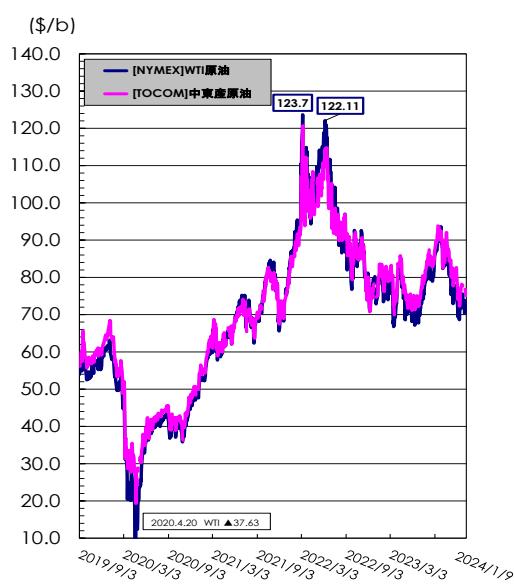
10日は、米国の先週末原油在庫が予想に反し増加、製品も予想を上回る増加、さらに、米国エネルギー情報局(EIA)は2024年国内産油量が史上最高となると予想、反落した。2月物終値は前日比0.87ドル安の71.37ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は、12月21日～27日の間、76.90～78.00ドルの範囲で推移。12月28日77.60ドル、29日77.80ドル、1月4日78.40ドル、5日77.90ドル、9日75.90ドル、10日77.60ドル。

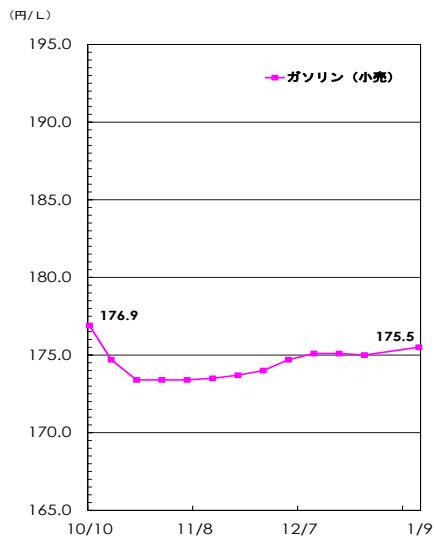
対ドル為替レート(ITT)は、12月21日～27日の間、142.22～143.48円の範囲で推移。12月28日141.84円、29日141.83円、1月4日143.44円、5日145.02円、9日143.98円、10日144.69円。

そのような中で、連休明け1月9日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.5円の値上がり、軽油は同0.6円の値上がり、灯油は同7円の値上がり(18リットルベース)。ガソリンは3週ぶりの値上がり、軽油も2週ぶりの値上がり、灯油も3週ぶりの値上がりとなった、ガソリンの全国平均価格は175.5円となった。

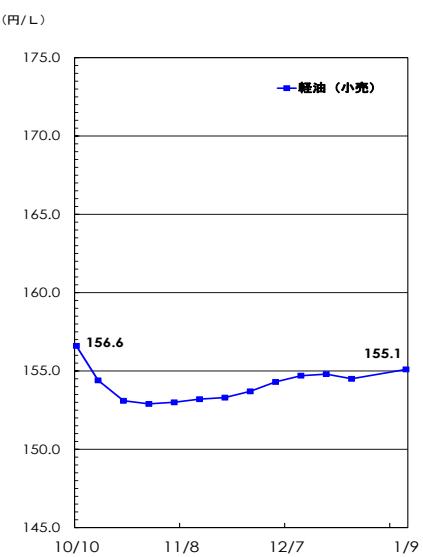
1月11日～17日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は15.0円(補助金がない場合の次週予想価格189.8円で、固定足給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は4.8円)となつた。



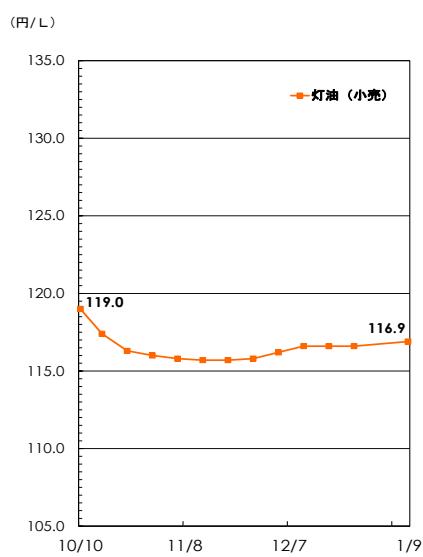
ガソリン		(単位: 千㎘、円/㎘)	
		今週	前週比
需給	生産	12/31 ~ 1/6	790 ▼ -218 ▼ -
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.
	出荷	"	649 ▼ -235 ▼ -
	輸出	"	50 ▼ -40 ▼ -
	在庫	1/6	1,671 ▲ 92 ▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/26 ~ 1/8	79.6 ▲ 1.4 ▲ 4.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	12/26 ~ 1/8	81.0 ➡ 0.0 ▲ 2.5
		1/5	79.0 ➡ 0.0 ▲ 5.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/9	175.5 ▲ 0.5 ▲ 7.3
			※業転、先物価格は税抜き価格



軽油		(単位: 千㎘、円/㎘)	
		今週	前週比
需給	生産	12/31 ~ 1/6	504 ▼ -249 ▼ -
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.
	出荷	"	78 ▼ -533 ▼ -
	輸出	"	115 ▼ -1 ▼ -
	在庫	1/6	1,596 ▲ 312 ▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/26 ~ 1/8	80.8 ▲ 2.0 ▲ 3.4
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	12/26 ~ 1/8	83.4 ▲ 1.4 ▲ 5.9
		1/5	- - -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/9	155.1 ▲ 0.6 ▲ 6.8
			※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		(単位: 千㎘、円/㎘)	
		今週	前週比
需給	生産	12/31 ~ 1/6	358 ▲ 55 ▼ -
	輸入	"	n.a. n.a. n.a.
	出荷	"	180 ▼ -240 ▼ -
	輸出	"	0 ➡ 0 ▼ -
	在庫	1/6	2,450 ▲ 178 ▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/26 ~ 1/8	82.0 ▲ 1.1 ▲ 3.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	12/26 ~ 1/8	82.0 ▲ 0.3 ▲ 3.5
		1/5	80.0 ➡ 0.0 ▲ 2.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/9	116.9 ▲ 0.3 ▲ 5.6
			※業転、先物価格は税抜き価格



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(12月28日～1月10日)のWTI石油先物市場は、28日続落の71.77ドルで始まり、年明け1月3日はパレスチナ情勢の緊迫化・リビアの供給障害等で、4営業日ぶりに反発したが、その後は、パレスチナ情勢と景気先行きを主な要因に、日替わりで値下がり・値上がりと方向感覚のない値動きを続けたが、10日は71.37ドルで終わった。2週を通じて、70ドル台前半で終始した。

1月10日発表の1月5日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間庫存統計は、原油在庫が前週比130万バレル増と市場予想(70万バレル減)に反する積み増し、ガソリン在庫は同800万バレル増、中間留分同650万バレル増と、各々市場予想(250万バレル増、240万バレル増)を上回る積み増しで、米国石油需給の緩和感が拡大した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年12月31日～2024年1月6日に休止したトッパー能力は10.5万バレル/日で、前週に対して横ばいだった(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は294.8万klと、前週に比べ2.4万kl減少。前年に対しては27.4万klの減少。トッパー稼働率は82.0%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては4.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/21.6%減、ジェット/111.0%増、灯油/18.2%増、軽油/33.0%減、A重油/27.6%減、C重油/43.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl。軽油の輸出は11.5万kl(前週比0.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)はジェットが増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は64.9万kl(対前週26.6%減)と3週振りに減少した。ジェット7.0万kl(対前週215.2%増)、灯油18.0万kl(対前週57.2%減)、軽油7.8万kl(対前週87.3%減)、A重

EIAによると、1月1日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.7セント安の1ガロン3.089ドル(116.4円/㍑)と2週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.8セント安と2週ぶりの値下がりの1ガロン3.876ドル(146.1円/㍑)、また、1月8日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.6セント安の1ガロン3.073ドル(118.4円/㍑)と2週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.8セント安と2週連続の値下がりの1ガロン3.828ドル(147.5円/㍑)。

ペーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、12月29日時点で、前週比2基増の500基と4週ぶりに増加、また、1月5日時点で、前週比1基増の501基と2週連続で増加した。

油11.6万kl(対前週49.7%減)、C重油5.8万kl(対前週44.0%減)。

(単位:千KL)

	今週 (12/31～1/6)	前週 (12/24～12/30)	前週比
ガソリン	649	884	▼ -235 (-27%)
ジェット燃料	70	-61	▲ 131 (-215%)
灯油	180	420	▼ -240 (-57%)
軽油	78	611	▼ -533 (-87%)
A重油	116	230	▼ -114 (-50%)
C重油	58	104	▼ -46 (-44%)
合計	1,151	2,188	▼ -1,037 (-47%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月6日時点の在庫は全ての油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、ジェットが減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは167.1万kl、前週差9.2万kl増。前年に対しては3.3万kl少ない。

灯油は245.0万kl、前週差17.8万kl増。前年に対しては12.2万kl多い。

軽油は159.6万kl、前週差31.2万kl増。前年に対しては1.9万kl多い。

A重油は74.4万kl、前週差4.8万kl増。前年に対しては0.1万kl多い。

C重油は194.9万kl、前週差9.4万kl増。前年に対しては19.7万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (1/6)	前週 (12/30)	前週比
ガソリン	1,671	1,579	▲ 92 (6%)
ジェット燃料	823	754	▲ 69 (9%)
灯油	2,450	2,272	▲ 178 (8%)
軽油	1,596	1,284	▲ 312 (24%)
A重油	744	696	▲ 48 (7%)
C重油	1,949	1,855	▲ 94 (5%)
合計	9,233	8,440	▲ 793 (9.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月2日～8日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したものの、元売会社の卸価格建値は0.5円の値下がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額13.8円を加え、今週の補助金15.0円を差し引いた、1/11～1/17の実質卸価格は1.7円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月26日～1月8日の製品スポット市況は、12月19日～25日平均と比べ、ガソリンの先物の横ばいを除いて、他の全ての油種・取引で値上がりした。

直近週(12/26～1/8)の陸上スポット価格平均値は、前週(12/19～12/25)比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油も1.1円の値上がり、軽油も2.0円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(12/26～1/8)に、前週(12/19～12/25)比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油も0.4円の値上がり、軽油も1.0円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.3円の値上がり、軽油も1.4円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/㍑)	
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (12/26～1/8)	前週 (12/19～12/25)
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	79.6	78.2
	灯油	82.0	80.9
	軽油	80.8	78.8

(TOCOM)		(単位: 円/㍑)	
[期近物/終値 [平均]]		今週 (12/26～1/8)	前週 (12/19～12/25)
先 物 価 格	レギュラー	81.0	81.0
	灯油	82.0	81.7
	軽油	83.4	82.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/26～1/8実績値) (単位: 円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.4	→ 0.0	▲ 0.7
灯油	▲ 1.1	▲ 0.3	▲ 0.7
軽油	▲ 2.0	▲ 1.4	▲ 1.7
A重油	▲ 1.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

連休明け1月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円高の175.5円、軽油は0.6円高の155.1円、灯油は18.9円ベースで7円高の2,105円(1㍑ベースでは0.3円高の116.9円)。ガソリンは3週ぶりの値上がり、軽油も2週ぶりの値上がり、灯油も3週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが37都道府県、横ばいは宮崎等3県、値下がりが7府県だった。全国最安値は徳島県の168.5円、その次は宮城県の170.4円であった。他方、最高値は長野県の185.6円。最も値上がりしたのは東京都と和歌山県(同1.9円高)、最も値下がりしたのは長崎県(同1.2円安)だった。

次回調査時(1/15)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(資源庁公表) [週動向]	今週 (1/9)	前週 (12/25)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	175.5	175.0	▲ 0.5
	灯油	116.9	116.6	▲ 0.3
	軽油	155.1	154.5	▲ 0.6

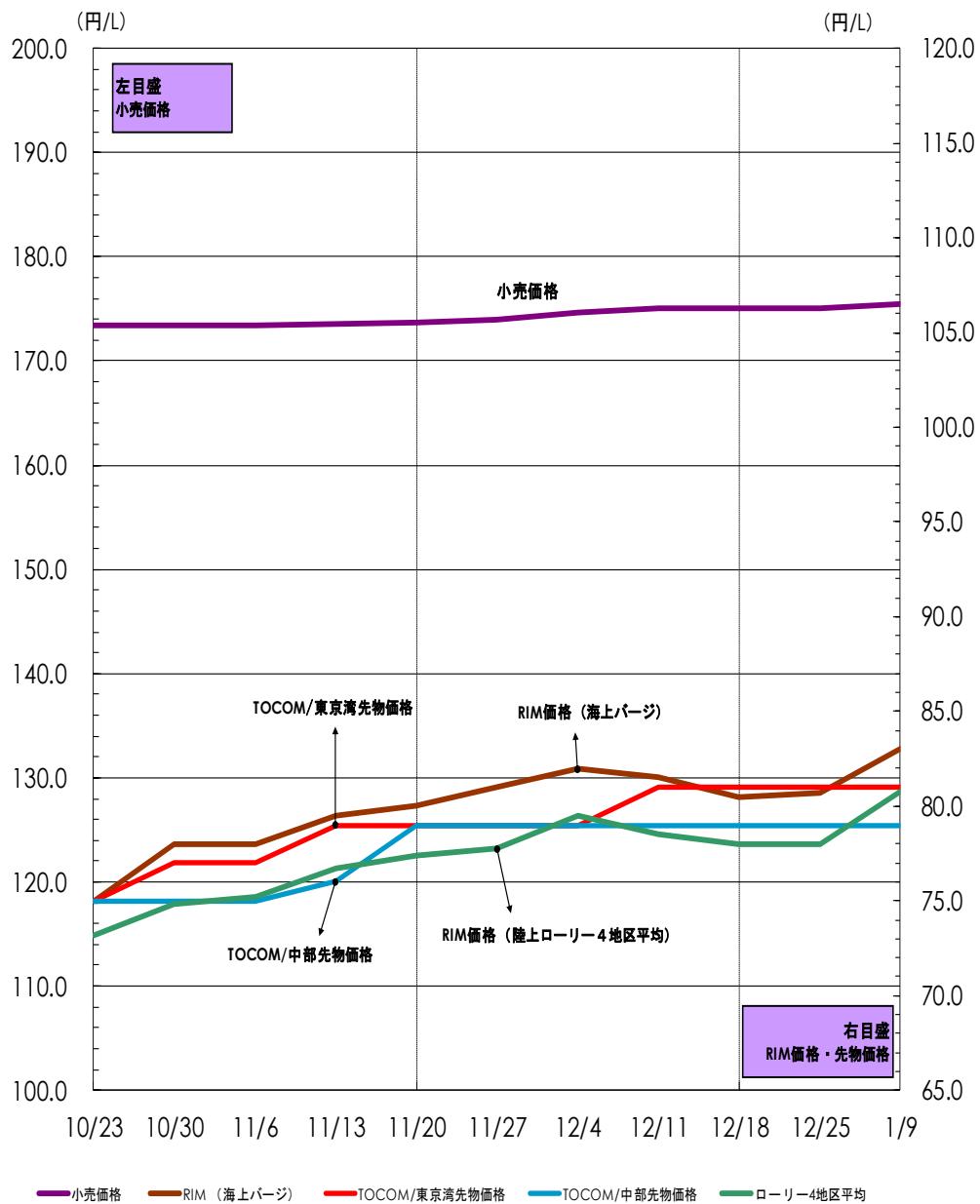
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/10/23 ~ 2024/1/9)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。

次回（2023第39号）の公表は、1/19（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。